

「母子同室/異室と育児不安」

分担研究：母子同室と母性の健全育成に関する研究

研究協力者 金澤浩二¹⁾・加藤 紘²⁾・鮫島 浩³⁾・新道幸恵⁴⁾・福田雅文⁵⁾

要約：母子異室制では、母子同室併用制に比較し、母性育成が遅れ、また、マタニティ・ブルーズへのリスクも高い。本研究では、妊産褥婦の精神的不安、育児不安の面から両者を比較検討した。STAIでは、両者の間に有意差をみなかった。育児回避、育児不安に関する判定尺度では、異室制で高い傾向にあり、とくに育児不安については、産褥1週で有意に高かった。

見出し語：母子同室/異室、妊産褥婦、精神的不安、育児不安

研究目的：前年度までの研究において、母の児に対する母親意識を含む母性の醸成が、出産後早期の母子接触時間の短いケ（母子異室制）では、長いケ（母子同室制ないし同室併用制）に比較し、遅れることが判明した¹⁾。本来、女性は、妊娠・出産・産後の育児を経験し、その母親としての役割意識を充実していくが、そこでは、望ましい母子の接触が必須であり、これをどうして望ましい母子結合と親子関係が成立していくものと推察される。したがって、母子異室のもとでのケには、改善すべき問題点があるように見える。

本年度においては、この問題点をさらに明確にするために、妊産褥婦の精神的不安、育児不安という面から、母子異室ケについて、母子同室併用ケと比較しつつ、検討した。

研究方法：母子同室/同室併用制の施設、母子異室制の施設を選択し、それぞれの妊産褥婦に対し、精神的不安、育児不安に関連した質問調査を行った。

1. 対象

あらかじめ研究の趣旨を説明し、十分な協力が得られると判断した施設のうちから、同室併用制（出産後24-48時間新生児室にて観察し、以後退院まで同室とする）の3施設、異室制（出産後退院まで異室とする）の3施設を選択した。産科的異常がなく、正常な出産と産褥が見込まれる初妊婦を対象とした。

なお、経過中に産科的異常が生じた症例は、対象から除外した。

2. 方法

精神的不安を検討するため、State-Trait-Anxiety-Inventory(STAI)²⁾による質問調査を、妊娠後半期、産褥6-7日目、産褥1ヵ月目の3回行った。

育児不安を検討するために、花沢の育児動機判定尺度³⁾を参考に別に作成した育児回避判定尺度(表1)、

(表 1)

	全くない	ほとんどない	どちらでもない	多い	非常に多い
見ていたい	()	()	()	()	()
そばにいたい	()	()	()	()	()
そい渡したい	()	()	()	()	()
さわりたい	()	()	()	()	()
ほほずりしたい	()	()	()	()	()
くちづけしたい	()	()	()	()	()
手をにぎりたい	()	()	()	()	()
あやしたい	()	()	()	()	()
話しかけたい	()	()	()	()	()
わらわせたい	()	()	()	()	()
乳をあげたい	()	()	()	()	()
だっこしたい	()	()	()	()	()

¹⁾ 琉球大学医学部産科婦人科学教室

²⁾ 山口大学医学部産科婦人科学教室

³⁾ 宮崎医科大学周産母子センター

⁴⁾ 神戸大学医学部母性看護学

⁵⁾ 長崎大学医学部小児科学教室

(表 2)

	同室併用	異室	同室併用	異室
育児に自信がない	()	()	()	()
育児は負担である	()	()	()	()
育児は苦痛である	()	()	()	()
育児はたのしみとはいえない	()	()	()	()
まわりのひとに助けてほしい	()	()	()	()
抱いてあやすことができない	()	()	()	()
上手に授乳することができない	()	()	()	()
授乳の間隔がよくわからない	()	()	()	()
おむつ交換が上手にできない	()	()	()	()
着せ替えが上手にできない	()	()	()	()
沐浴が上手にできない	()	()	()	()
洗濯が上手にできない	()	()	()	()
子と気持ちがよくかよわない	()	()	()	()
子と対話がうまくできない	()	()	()	()
むずかっている時、どうしてかわからない	()	()	()	()
泣いた時、どうしてかわからない	()	()	()	()
わらった時、どうしてかわからない	()	()	()	()

および、独自に作成した 育児不安判定尺度(表2)による質問調査を、産褥6-7日目、産褥1ヵ月目の2回行った。

研究は、1997年6月 から1997年11月 まで実施した。すべて対象のインフォームド・コンセントを得て行った。

各質問項目について、あらかじめ決められた点数によって得点を算出し、有意差検定を行った(t-test)。

研究結果:最終的に有効回答は、同室併用施設では、35例(平均年齢28.2歳)、異室施設では38例(平均年齢27.8歳)に得られた。

1. STAI (表 3)

状態不安については、異室施設では、同室併用施設に比較し、高い傾向にあるが、その差は有意でなかった($p>0.05$)。また、それぞれの施設において、妊娠後期、産褥1週、産褥1ヵ月にともなう変化はみられなかった。

特性不安については、同様に、異室施設ではやや高い傾向にあるが、その差は有意でなかった($p>0.05$)。また、妊娠後期、産褥1週、産褥1ヵ月にともなう変化はなかった。

2. 育児回避、育児不安 (表 4)

育児回避については、異室施設では、同室併用施設に比較し、高い傾向にあるが、その差は有意でなかった($p>0.05$)。

育児不安については、同様に、異室施設で高く、と

(表 3)

	同室併用 (n=35)	異室 (n=38)
状態不安		
妊娠後期	40.8 + 8.9	41.8 + 6.6
産褥1週	38.0 + 7.2	39.9 + 9.2
産褥1ヵ月	40.1 + 9.0	41.0 + 7.4
特性不安		
妊娠後期	39.3 + 8.0	40.7 + 7.4
産褥1週	39.2 + 7.4	41.6 + 9.7
産褥1ヵ月	39.6 + 9.1	41.7 + 7.5

(表 4)

	同室併用 (n=35)	異室 (n=38)
育児回避		
産褥1週	4.7 + 4.3	5.7 + 5.2
産褥1ヵ月	6.1 + 5.3	7.3 + 5.0
育児不安		
産褥1週	33.6 + 5.5 ^a	37.7 + 6.4 ^a
産褥1ヵ月	32.3 + 7.0	35.4 + 7.0

a: $p<0.01$

くに産褥1週では有意に高かった($p<0.05$)。

考察:母親意識は、妊娠、出産、育児をどうして具現化してくるようみえる。とくに、出産後早期の子との接触は、そこに強い関与を与えると推測される。母子同室制、母子同室併用制、母子異室制という早期産褥ケアは、単純には、母子接触時間の長短の違いということになるが、その背景にある母への有形無形の心身的サポートという点で大きな差異がある。今日、母子接触の重要性が再認識され、同室制ないし同室併用制が広く受け入れられつつある⁴⁾が、なお、この問題に対して関心が低く、異室制を採用したままの施設も少なからずみられる。

われわれのこれまでの検討においては、異室制施設では、同室ないし同室併用制施設に比較し、母性の育成、母親意識の醸成が遅れ、又、マタニティ・ブルーズへのリスクが高いことが判明している¹⁾。本研究においては、妊娠産褥婦の精神的不安、育児不安の面から、この問題について検討してみた。すなわち、STAIからみた精神的不安については、これが異室制で同室併用制より有意に高いという結果は得られなかった。ただ、育児回避、育児不安については、異室制で高く、とくに育児不安については、産褥1週で有意に高いという結果であった。

時代とともに、生活環境や習慣が変化し、ひとびとの価値観も多様化し、伝統的な母親意識、育児の重要性の認識などにも変化がみられる。しかし、母子の健全な結合は誰もが望むところであり、われわれ周産期医療に携わる者は、このための環境づくりに努力しなければならない。異室制については、既に、いくつかの問題点が指摘されており、母子接触を拡大させるための工夫が望まれる。

参考文献

- 1)金澤浩二、稲福 薫：母児同室と妊産婦精神面支援の関連 -母児同室と母性育成-。厚生省心身障害研究 平成6年度研究報告書、p55,1994
- 2)Spielberger CD, Gorsuch RL, Lushene RE: Manual for the State-Trait Anxiety Inventory (Self-Evaluation Questionnaire). Palo Alto, California: Consulting Psychologists Press, 1970
- 3)花沢成一：母性意識の発達。母性心理学(医学書院、東京)、p9,1992
- 4)金澤浩二、稲福 薫：母児同室と妊産婦精神面支援の関連 -母児同室に関する意識調査-。厚生省心身障害研究 平成5年度研究報告書、p47,1993



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:母子異室制では、母子同室併用制に比較し、母性育成が遅れ、また、マタニティ・ブルーズへのリスクも高い。本研究では、妊産褥婦の精神的不安、育児不安の面から両者を比較検討した。STAI では、両者の間に有意差をみなかった。育児回避、育児不安に関する判定尺度では、異室制で高い傾向にあり、とくに育児不安については、産褥1週で有意に高かった。